

開発背景

を読み解く
フューチャーレイズ①

コロナ禍で起きた消費者の行動変容、ニーズの変化を受け、通販企業もこれに対応する必要に迫られている。Future Rays (フューチャーレイズ、大阪市北区)は、いかにこれをサポートしていくのか。

コロナ禍を受けた通販市場の変化の一つは、テレビ通販需要の高まりだ。在宅時間が増加から、需要が高まった。これをフューチャーレイズは、今春からテレビ通販に適したオプション機能の提供を始めている。

テレビ通販は、短時間で、一定の頻度でターゲティングを行う。インターファクトリー品を入力した時点で在庫確保の処理を行い、電話中に在庫切れが起らないようにする。在庫切れの際の企業でDX化の推進が意識されている。一方、日本国内もDX化の推進を背景に、さまざまな特徴を持ったウェブカートを選択肢は増えている。フューチャーレイズの基幹は、通販、D2Cに特化したもの。ただ、これまでのシステム開発経験のノウハウを強みに、B to C、B to Bの各領域で利用されるシステムについて、各社の業務との組み合わせから最適なシステム選定を支援するコンサルティングも提供している。

「クラウドK」について。データベース共有、最短発送可能日の実現するシステム。また、在庫切れの際の企業でDX化の推進が意識されている。一方、日本国内もDX化の推進を背景に、さまざまな特徴を持ったウェブカートを選択肢は増えている。フューチャーレイズの基幹は、通販、D2Cに特化したもの。ただ、これまでのシステム開発経験のノウハウを強みに、B to C、B to Bの各領域で利用されるシステムについて、各社の業務との組み合わせから最適なシステム選定を支援するコンサルティングも提供している。

電話受注の場合は、オペレーターが注文時には、独自のウェブカートにつながることを経営層が理解しているためだ。経営者によるトップダウンでリアレイズなどオペレーションの再構築が行われるケースが少なくない。

コロナ禍の市場変化に対応

テレビ通販オプションなど提供

（おわり）